

2018年4月28日

市民生活協同組合ならコープ  
理事長 中野 素子 様

市民生活協同組合ならコープ 環境監査委員会  
委員長 松村 佳子 (奈良教育大学名誉教授)  
飯田 多恵 (組合員代表)  
水川 紀子 (組合員代表)  
植本 深雪 (組合員代表)  
高良 光江 (ならコープ常任理事)  
田村佳代子 (ならコープ理事)  
藤田有紀子 (ならコープ理事)  
牛谷 光子 (ならコープ理事)  
三田 幸子 (ならコープ監事)  
小野寺 浩 (株システムデザイン)

### 2017年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

#### I. 監査概要

環境監査 2018年4月28日(土) 9:00~16:00

2017年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査 被監査者 中野理事長、山中専務理事・他7名

#### II. 2017年度実績の評価

1. 前年度監査の結果「今後の取り組みにあたっての意見」に真摯な対応が取られたことを評価します。
2. 全体として、世界が将来を共有する目標としての「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方を活用して地域における各種環境活動や事業での環境配慮をとらえなおされた点は、時宜に叶っているものと評価できます。
3. エネルギーの地産地消を目指し、水力発電所「つくばね発電所」の復活に協力して、ならコープでんきの電源に占める再生可能エネルギー比率が49%となっていることや、ならコープでんきの契約件数が順調に伸びていることは評価できます。
4. 環境配慮型店舗のコープなんごうに続き、コープ七条が新店舗となったことにより電気使用量が増加していますが、省エネ設備を積極的に導入されたことにより、供給高あたりでのCO<sub>2</sub>排出量が削減できていることは評価できます。
5. 事業活動・組合員活動で、組合員とともにエシカル消費の取り組みを積極的に実施されたことは評価できます。
6. 奈良こども食堂ネットワークやフードバンク奈良との連携を深め、支援をはじめられたことは食品ロスや地域とのつながりの観点から評価できます。

#### III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 国際連合の温室効果ガス削減目標年度に整合し、2030年に向けた環境活動の目標策定を計画されていますが、実現可能で有効な目標の策定を期待いたします。
2. 組合員・職員及び地域の市民を対象に、新たな「環境に関わる情報」の学習の場を、これまでよりも多くつくっていただきたい。
3. 今後、無店舗事業での配送車両の軽油使用量が増大することが見込まれますが、車両や配送方法などの研究を具体的に進めてください。
4. BDF対応、使用済みてんぷら油回収活動等について、前年と同様になりますが、時代的な環境変化に合った見直しを更に進めてください。
5. フロン排出抑制法に基づく点検の実施により、フロン漏えい量の把握が出来ていることは評価できますが、増加したことに対する原因の特定と再発防止を徹底してください。
6. ならコープでんきの再生可能エネルギー比率を、更に向上させてください。

以上